

棚尾地区まちづくり事業
平成 27 年 4 月 23 日 (木) 19 時～
棚尾公民館 3 階

第 46 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行 (小笠原幸雄)

- 1 前回までのテーマに関する参考意見など
新田の開発、長富公園、棚小校庭の造営物、棚尾の橋など
- 2 テーマ 74 「昔の地名」
 - (1) 説明 (磯貝国雄)
 - (2) 出席者による補足説明、感想など
- 3 テーマ 75 「酒造り」
 - (1) 説明 (磯貝国雄)
 - (2) 出席者による補足説明、感想など
- 4 連絡事項・情報交換など
- 5 次回日程
第 1 回 DVD 棚尾物語製作部会
5 月 13 日 (水) 7 時 30 分から
第 47 回歴史を語る会
6 月 25 日 (木) 7 時から「棚尾言葉」、紹介コーナー「碧南市章」

「昔の地名」

1 要旨

地名には歴史を感じる名称がある。源氏の伝説が残る源氏町。昔、春日社があった春日町。平安時代にこの辺りは志貴荘と呼ばれる荘園であったが、その名前に由来する志貴町。八柱神社にある弥生の井にちなむ弥生町。大正時代初めまで若宮社があった若宮町など。今は使われていない昔の地名にも、由緒あるものが数多くあった。

2 字名

棚尾地区の土地の表示は、明治6年(1873)から昭和47年(1972)まで、丁度百年間にわたって字(あざ)で表わした。

明治32年書之の「本村沿革記録」「棚尾村史」によると次のとおりである。

字名	面積	筆数	江戸時代の字名	現在の町名
源氏	4町5反1畝 18歩	68筆	源氏、浜ノ上	源氏、弥生
加須	3町0反1畝 16歩	62筆	藪後、大ノ内、小谷、 加須	源氏、汐田
日影	1町7反7畝 15歩	43筆	後屋敷	源氏、志貴
志貴屋敷	1町9反1畝 15歩	44筆	屋敷、後片坂	志貴
中道	1町9反1畝 13歩	53筆	前屋敷	棚尾本
前畑	6反6畝14 歩	56筆	前畑	棚尾本
西山	3町9反3畝 13歩	92筆	奥屋敷、西山前	源氏、弥生
森之崎	2町1反10	50筆	森、八王子、光照寺、	弥生、若宮

	歩		池端	
森下	3町4反7畝 23歩	54筆	森下、西浦	弥生
濱田	1町9反16 歩	26筆	濱田	弥生、雨池
雨池	8町9反29 歩	92筆	大堤東、雨池	雨池
亀ヶ下	3町7反3畝 2歩	41筆	亀ヶ下	若宮
上屋敷	2町8反3畝 歩	62筆	若宮、上屋敷	若宮
田之崎	2町6反3畝 25歩	54筆	池ノ上、田之崎、久 保見、	若宮、弥生
中久根	2町3反5畝 歩	54筆	亀ヶ上、東山、伏塚	棚尾本
東川	3町1畝12 歩	63筆	折戸、南折戸、西屋 敷	棚尾本
後畑	8反3畝13 歩	25筆	郷蔵、後畑	志貴
畑中	1町3反7畝 8歩	41筆	北折戸、御堂前、折 戸藪下、郷蔵西	志貴
堀切	2町9反6畝 22歩	61筆	堀切、堀切前、堀切 下	志貴
後汐田	5町2反9歩	77筆	汐田、上國、後田、 中道場	汐田
奥汐田	5町2反6畝 6歩	66筆	江奥、汐田、鳥細 道、善明坂下、汐田 堤	汐田、春日
善明坂	3町9反8畝 20歩	81筆	善明坂東、善明坂	汐田、春日

春日東	4町3反8畝 4歩	62筆	乗越、春日、乗越 島、乗越橋	春日
澤渡	5町2反3畝 2歩	76筆	四反田、澤渡、七日 旱田	栗山、沢渡
作塚溜	1町4反4畝 21歩	26筆	溜内、作塚溜	作塚、沢渡
小栗山	6町7反3畝 14歩	102筆	東浦後、小栗山	栗山

以下は現在中山地区に入る為省略

神明前、申待、中山前、神明前、神明後、三軒家後、鼬穴植出、山田狭間、植
出狭間、中向山後、向山、中山、北中山、山田、荒子狭間

字図



3 地名のいわれ

地名のいわれについては、碧南市史料第2輯に「碧南の地名研究」があり、棚尾に関するものは次のとおりである。

- 棚尾 平坦で棚の様な台地の、尾のような先端。
- 源氏 長田親致（ちかむね）の乳母初音の住地、野間の変後、乳母の所に潜居した。子孫家康に従い戦功あり、恩賞としてこの地を中心として百町歩、領してここに住んだ。
- 加須 埼玉県北足立郡加須町出身の武士斎藤氏が、大番組で京都に行った時に一族13人移住したによる。現在棚尾の斎藤氏の先祖という。
- 日影 妙福寺境内の木のために生じたる日影。旧名は後屋敷。
- 志貴屋敷 志貴左衛門の屋敷跡。文徳天皇の御代。
- 中道 真ん中の道。明治初年の新字名である。旧名前屋敷の一部。
- 前畑 志貴屋敷の生田新左衛門の屋敷の前畑。家綱将軍の頃。
- 西山 志貴屋敷より見て西方の小山。
- 森之崎 八柱神社を中心として鎮守の森之崎。
- 森下 森の下。
- 雨池 雨が降ると池になったから。
- 亀ケ下 地形が亀甲状をしていた為か。
- 上屋敷 お上が住んだ屋敷。地頭として熊谷若狭守が居た。
- 田之崎 元は低地で沢をなしていた田の崎。今から百五六十一年前に田を埋めた。
- 中久根 元は御堂前と言った。明治六年の新字名。
- 東川 東側の意。
- 後畑 生田新左衛門の後畑。昔は本郷と言った。
- 畑中 畑の中。
- 堀切 通称北山。元和年中（1615～1623）用水を通ずる為掘り切った。此処に天文十二年（1543）武田にせめられて小笠原一族二十七人が初上郷の隣松寺に二年居住し、次にこの堀切に移住した。小笠原仙太良氏の本家である。
- 後汐田 塩田の後方。
- 奥汐田 塩田の奥の方。
- 春日 春日神社から。

栗山 栗の木が多かった小山。崖は松、内部は栗の木、この栗の木は棚尾の建築材料になった。

4 地名の変遷

(1) 明治6年

明治維新の政治体制になり、新字が設定される。

(2) 行政区域の変更

ア 東浦の分離と雨池の併合 明治9年

イ 北棚尾村の分離 明治16年

ウ 志貴崎地区の併合

エ 中山地区の分離 昭和61年

(3) 区画整理事業及び土地改良事業に伴う町名地番の変更は次のとおりである。

事業名	主な地区名	事業完成年
平和用水耕地整理事業	現在の春日町、栗山町、作塚町、沢渡町の区域。 この時善明坂、春日東、作塚溜、小栗山の字名が消え、善明、春日、栗山、作塚ができる	明治41年
松本地区区画整理事業	沢渡町、源氏神明町並びに栗山町、作塚町の一部	昭和47年
平七地区区画整理事業	志貴崎町、川端町、若宮町の一部	昭和59年
平七第二地区区画整理事業	志貴崎町	昭和59年
伏見屋地区土地改良事業	舟江町	昭和60年
中江地区土地改良事業	中江町	平成4年
雨池地区区画整理事業	雨池町	平成6年

(4) 新町名地番設定

昭和48年4月1日大浜、棚尾地域に新町名地番が設定される。棚尾地区に関連する町名は、次のとおりである。

源氏、汐田、春日、作塚、沢渡、源氏神明、栗山、志貴、棚尾本、弥生、若宮、志貴崎、舟江、中江、川端、雨池

5 町内会組織の沿革

(1) 組制

昔から昭和 62 年まで続いた組織で、字（あざ）を基本として「□□組」と称し、
組長 → 伍々長 → 伍長で組織し、棚尾全体を次の 15 組で構成した。

源氏、 加須、 汐田、 春日、 日影、
前畑、 中道、 西山、 屋敷、 中久根、
畑中、 本道、 堀切、 森、 上屋敷

但し、昭和 60 年からは、志貴崎を追加し、16 組で構成した。

尚、琴平社やお地蔵さんの管理は、現在でもこの組織を継承して行われている。

(2) 町内会制

昭和 63 年度から町内会制に移行し、新町名に基づきそれぞれ「□□町内会」とし、
町内会長 → 部長 → 班長で組織する。

昭和 63 年度から平成 25 年度までは次の 10 町内会であった。

源氏、 汐田、 春日、 作塚沢渡、 栗山、
志貴、 棚尾本、 弥生、 若宮、 志貴崎

平成 26 年に若宮町内会及び志貴崎町内会の戸数が増えたため、雨池川端町内会が一つの町内会として独立し、11 町内会となる。

「酒造り」

1 要旨

棚尾は酒造りが盛んで、酒造家としては相生ユニビオ「相生盛」、永井治郎平商店「昇勢」、長田酒造場丸玉「自慢長」、斎藤酒造「鶴亀」、笹娘酒造「笹娘」などがあって、その内の一部は現在も続いている。

藤井達吉は子供の頃、隣の酒蔵から聞こえて来る酒造り唄を聞いて育ち「幼きの思い出なつかし 丸玉の 酒もみ唄の 聞こえるかな」と和歌に詠んでいる。

2 棚尾における酒造りの沿革

(1) 江戸時代の酒造家

明細帳及び市史資料第 48 集「碧南の醸造」から棚尾に関連する箇所を抜粋すると次のとおりである。

西暦	和 暦	事 項
1742	寛保 2 年 明細帳	角左衛門：先年より造申候 与四右衛門：13 年以前戌（享保 15 年 1730 年）ノ 9 月より造申候 其節御願申上候 善兵衛：5 年以前午（元文 3 年 1738 年）9 月より 造申候 其節御願申上候
1753	宝暦 3 年 明細帳	角左衛門：先年より造申候 与四右衛門： 同上
1762	宝暦 12 年 明細帳	角左衛門： 同上 与四右衛門： 同上
1770	明和 7 年 明細帳	角左衛門 与四右衛門
1788	天明 8 年	角左衛門、与四右衛門、市左衛門、和助
1799	寛政 11 年 市史資料	斎藤倭兵衛が源氏に引越し酒造を営なむ

1800	寛政 12 年 市史資料	与四右衛門が大浜村五兵衛に株を譲る
1801	享和元年 明細帳	酒屋三軒：角左衛門、市左衛門、利三郎 ※ 市左衛門は庄屋
1841	天保 12 年 明細帳	酒造人：倭兵衛

明治 5 年 (1872) 菊間藩村組織によると、酒屋石川市郎、岡本八郎右衛門とあり、又酒造取締として片山三十郎 (酒屋) 長田半十 (酒屋) の二人が命ぜられ、片山の主な任務は酒造技術の交換、長田は仲介と良酒製造への努力が仕事であって、このように藩としても酒造に力を入れるようになった。

(2) 近年の酒造家

名 称	創 業 年 等	銘柄等
永井酒造場	慶應 2 年	「昇勢」 永井治郎平
相生ユニビオ(株) 相生酒造	明治 5 年創業 (但し、最初は味醂を製造)	「相生盛」 味醂の後に清酒の製造を始める 古久根勇蔵
鶴亀酒造合資会社	明治 13 年創業 平成 8 年廃業	「鶴亀」 斎藤亀助、志一郎、良二
笹娘酒造	明治 41 年創業 (但し、最初は味醂を製造)	「笹娘」 味醂の後に清酒の製造を始める 斎藤倉吉
丸玉 長田醸造場	明治 42 年創業 昭和 53 年廃業	「自慢長」 長田半太郎：三代長田半十の三男
丸玉 長田半十	文化元年 (1804) 創業 明治 14 年の第 2 回内国勸業博覧会に出品	「丸玉」

又、戦時中原料米の厳しさから、米以外の原料による共同製造の構想も出て、業者が共同によって甘藷、米糠などを原料とする焼酎の製造を企画し、古久根勇蔵の倉庫を借り受け製造を開始したのが三河合同焼酎株式会社で、愛知酒精工業株式会社の前身である。

4 西三酒造組合

住所 碧南市志貴町 2-96

営業内容 組合事業

この組合については「碧海郡案内」昭和5年 発行：愛知県碧海郡連合商工会に次の記載がある。

「西三酒造組合」

本郡は県下に於いて知多郡に次ぐ酒類の醸造地である。清酒は各町村に醸造家があるが、味醂は碧南地方に特に醸造が盛んである。これら醸造業者関係の団体としては、大浜町に事務所を有する西三酒造組合がある。

明治25年郡一円を区域として組合を組織し、碧醸組と称えたのが本組合の始めである。明治42年7月に組織を変更して碧海郡酒造組合と改称し、更に大正13年11月知立・西尾の二税務署が廃止となり、大浜税務署が新設となった結果、組合区域を拡張して碧海・幡豆の二郡となし名称も現在の通り西三酒造組合と改めた。

税務署の廃合は勿論政府の行政整理の結果であるが、大浜町に新設せられたのは、主として碧南四ヶ町村に間税物件即ち酒類・醤油・綿織物の生産が多数集中せられて居たためである。

5 酒造り職人

酒造りは冬季に仕込むので、人手が必要で新潟、富山方面から出稼ぎ者を頼まなければならない。毎年、碧南市内に二百人位の作業員が各酒造工場にやってきた。出稼ぎ者たちは早朝から威勢のよい掛け声に合わせて作業を始める。

一人の杜氏のもとに、十五人前後のグループになって、三月まで酒造りをするのである。作業する時には、唄を唄って元気よく働くのである。酒づくり唄の一つに

「宵にや酏（もと）かく 夜中にや甑（こしき） 朝のかしはがつろうござる」というのがある。

昭和2年の棚尾町の報告文書を見ると

ア 出稼ぎ業種別人員

杜氏 1 名、 頭 1 名、 麴師 2 名、 酛廻り 4 名、 道具廻し 2 名

イ 出稼ぎ時期

11 月末～3 月末

ウ 出稼ぎ者の一人一日収益

杜氏 2 円 50 銭、蔵男 1 円 80 銭

6 清酒の分類

分 類	使用原料	精米歩合	香味等の要件
大吟醸酒	米、米こうじ、醸造 アルコール	50% 以下	吟醸造り、固有の香味 色、沢が特に良好
吟醸酒	米、米こうじ、醸造 アルコール	60% 以下	吟醸造り、固有の香味、 色沢が特に良好
純米大吟醸酒	米、米こうじ	50% 以下	吟醸造り、固有の香味、 色沢が特に良好
純米吟醸酒	米、米こうじ	60% 以下	吟醸造り、固有の香味、 色沢が良好
特別純米酒	米、米こうじ	60% 以下	香味、色沢が特に良好
純米酒	米、米こうじ	70% 以下	香味、色沢が特に良好
特別本醸造	米、米こうじ、醸造 アルコール	60% 以下	香味、色沢が特に良好
本醸造酒	米、米こうじ、醸造 アルコール	70% 以下	香味、色沢が良好
普通酒	米、米こうじ、醸造 アルコール、糖類、 酸味料、調味料	規定なし	規定なし、大衆酒とし て多くの人に愛飲され ている

精米歩合

米をどれだけ精米したか（削ったか）を示しており、精米歩合 60%ならば、米の外

側を 40%削ったものを醸造したことを表している。米は芯に近いほど旨み成分が詰まっている。

酒米

普通の米よりも粒が大きく、雑味の元になるタンパク質や脂肪分が少ない。外側が硬く、内側が柔らかで、保水性に優れている。

7 酒づくりの唄

南中学校郷土部が昭和 37 年度に「私たちの郷土研究 (五) 酒づくりの唄」を発行した。以下はこの資料に基づく。

(1) 「酒づくりの唄について」 顧問 村瀬正章

この碧南は、江戸時代から名のある酒の産地である。三河の酒は良品として江戸にも送られたが、当地方で造られる酒は多量であった。天保 7 年 (1836) に江戸へ積み出された三河の酒は、45,305 石であり、そのうち大浜村が 6,338 石、棚尾村 1,462 石、平七村 1,500 石、鷺塚村 45 石、西端村 36 石である。廻船業の発達したこの地が、大浜、鷺塚の二港を控えて、原料米と製品の輸送に便利であったことが、酒造業の発達に役立った理由であろう。

その頃仕込みの時期になると、あちらの酒屋からもこちらの酒屋からも、酒蔵の中から唄声 flowed であろう。器具を洗いながら唄う「流し唄」、米をときながら唄う「米洗い唄」、甑 (もと) をつくるため長い擗でつきながら唄う「甑すり唄」、いよいよ仕込み期に入ると「仕込唄」が 11 月から 2 月にかけて競うように聞こえてくる。

千石船の出船には、酒樽がいっぱい積み込まれ、入船には空樽が積み込まれてくる。江戸の相場が飛脚で届く。盛んな酒造り、そして酒造り唄が唄い継がれてきた。酒造り唄も明治から大正、昭和に及び今は酒造方法の近代化に伴なって消え去ろうとしている。……

棚尾村の源氏に生まれ、幼い頃から近所の酒蔵から聞こえてくる「酒造り唄」の中で育った藤井達吉はその思い出を次のように読んでいる。

「幼きの 思い出なつかし 丸玉の 酒もみ唄の 聞こえこるかな」

棚尾の八柱神社の西には十幾つかの井戸がある。酒屋さんは一つずつ井戸を持ち、仕込みの時期になるとそれぞれの蔵に運んだ。(「水ひきさん」と呼ばれていた。) この井戸の水を使うと火持ちがよいといわれたが、それはその水質のせいであろう。棚尾に昔から酒や味噌を造る家の多いのもこのためと思われる。達吉も「産土の 神の御

庭の 水汲みて 担ないて水呑む 音のしたしも」

と詠んでいるが、伊勢湾台風後は、もうこうしたことも行われなくなった。

(2) 流し唄

これは器具を洗う時に唄う。毎年11月下旬頃、前年に使用した六尺桶や半切（はんぎれ）その他の器具を熱湯につけて洗う、戸外の作業唄である。酒造りは終始清潔を大事とする。

(鶴亀酒造合資会社)

酒屋さんかね来ないでおくれ 一人娘の気をそわす
冬の盛りに酒屋へ来れば 泡（あわ）や麴の花ざかり

(相生酒造株)

ハァー 朝の流しはどなたにどなた 可愛い男の音がする
ハァー 可愛い男の流しの時は 水も湯となれ風ふくな

(永井酒造場)

朝の流しはどなたのこなた 可愛いあの子の音がする
朝の流しは二番か槽（おけ）頭 終い流しはチョト釜屋さん
寒い風だよ情けを知らぬ 風に情けがあるものか
酒屋御商売大名の暮し 前にゃ六尺立てて呑む
宵の酩スリ夜明けのコシキ 朝の流しがなけりゃよい
越後出る時涙で出たが 今じゃ越後の風もいや
秋の十月泣き分かれでも 花の四月にまた会える
コシキ倒れる仕込みも終わる 半期雇い衆ヒマが出る

(長田醸造場)

イヤー 朝の流しは二番が船頭 しまい流しは釜やさん
イヤー 寒い風だよ情けを知らぬ 風に情けがあるものか

(3) 米洗い唄

原料米である精米を洗う時に唄う唄

(相生酒造株)

トロリシャラリと今とぐ米は 酒につくりて江戸へ出す
江戸へ出すとは昔の事よ 今は世が世で地ではける

(4) 酩すり唄

精米を蒸して蒸米（むしまい）をつくり、麴室（こうじむろ）に運んで麴米をつ

くる。蒸米に麴米と水を加えて酏をつくる。この時に大きな桶の中でこれをつきながら唄う唄である。酏造り唄とも言う。二三人で長い擻を用いて突き崩して攪拌する。

(鶴亀酒造合資会社)

トロリシャラリと今する酏は 酒をつくりて江戸に出す
江戸へ出すとは昔の事よ 今は世が世で地ではける

(相生酒造株)

ハアー 地でもはける酒エーヨイ 名取の御銘酒 酒は剣美酒男山
ハアー 男山よりエーヨイよりも わしの好いたが当庫の酒
ハアー トロリシャラリと今つく酏は 酒につくりて江戸へ出す
江戸へ出すとは昔の事よ 今は世が世で地ではける
ハアー 地でもはける酒名取りの御銘酒 酒は相生男山

(永井酒造場)

トロリトロリと出た声なれど 声を取られたよ河風に
今宵お蔵で今する酏は 酒に造りて江戸へ出す
江戸へ出すとは昔の事よ 今は世が世で地ではける
江戸へ出す酒は名取の銘酒 酒は剣菱男山
男山よりこの倉の吟醸 酒は棚尾の昇勢だよ
めでためでたの若松様は 知行が増します五万石
五万石なる若松様は 杖を増します葉も繁る
今宵お蔵は目出度いお蔵 黄金切窓銭すだれ
だれもどなたもこゝらでちよいと ちよいと吸いましょ長煙草
千秋楽とはお目出度いよ 目出度いところでシャンにしよう

(長田醸造場)

トロリトロリトヤヤー今つく酏は 酒につくりて江戸へ出す
江戸へ出すとは昔の事で 今は世が世で地ではける
地ではける酒はのうウンヤ名取りの御銘酒 酒はきんじ酒男山

(5) 仕込み唄

酏に蒸米、水を加えて醪（もろみ）を仕込む。大きな桶に入れた材料の上に舟を浮かべ、その上に乗った職人は船頭といい、長いかいで掻きまわしている。最初は初添、二日目は仲添、三日目は留添というが、この仕込みの作業に合わせて唄うの

が仕込み唄である。擢入（かいいれ）唄とも言う。酩酊唄よりやゝテンポが遅い。
醪になると二番醪唄ともなる。

（長田醸造場）

いつもごかれのお風呂の上り いつも心がいそいそと
今宵お蔵は目出度いお蔵 黄金切窓銭すだれ

（永井酒造場）

白壁土蔵にコウモリ宿（とま）りて そいつが邪れて財産がもてない
アリャリャヨンヤセ アアヨンヤセイ アアヨンヤセ

8 酒にまつわる話題

八柱神社の祭りは酒が呑めるということで遠くからの参詣者も多かった。昔は酒は一般庶民には高値の花だったからである。三軒の酒屋さんからそれぞれ四斗樽が一樽ずつ出る。そのため呑み過ぎて、境内で酔いつぶれた人も多くいた。